緊急速報　外国人介護士候補者の【国家試験対策情報】　月報27号

第2弾

確実に合格させる方法！！

月報２６号の続報をお知らせします。

Ⅳ、自学能力を養うこと

図１

自学能力を養うための三大要素

１、目標を明確にすること

２、学習成果を具体化させること

３、能動的な学習をすること

１、なぜ、自学能力が必要なのか

- 東アジアの教育方法は、「教えてもらって学ぶ」という共通した姿がある。　しかし、この一方的な姿は、**【学ぶ側の能力や個性、そして、自立性】**を引き出すことができない。
- その結果、個人の能力を発揮できず、さらに、受験者の精神状態は「受動型人間」となってしまう。　そのため、ただ教えられたものを盲目的に覚える人間となる。
- そこで問題視しなければならないことは、「受動型人間」を作ると、1～10 まで教育指導者は教えることに終始して、「世話焼き係りの教育者」に陥ってしまう。　さらに、「教育結果の全ての責任を負わされるか、逆に、受験者に全て責任を転嫁するか」のいずれかという極端なやり方になってしまう。すでに、看護・介護士国家試験領域においても、この様な両極の責任のなすり合いが生じている。
- そして、過去二回の合格実績を見ると、「受動型人間」の合格率はあまりにも低い結果を出している。この合格率を高めるためには、**【自学能力を身につけた「能動型人間」を作る】**ことこそが、「合格への道」の最大の課題となることは明白だ。

２、なぜ、三大要素が重要なのか

- 前述したような結果を生み出さないためには、**【自学能力を養うための三大要素】**を十分に認識した上で、実行するしかない。　即ち、受験者を「受動型人間」ではなく、「能動型人間」に入職当初から指導していくことが、最も重要なことだと言える。
- その成功例は、次の頁の下欄に紹介しているので、是非とも参考にしてほしい。　受け入れ機関が【自学能力を養うための三大要素】を実践していけば、具体的に受験者側と受け入れ側の双方のメリットが生まれる。　その結果、受験者は合格者となり、受け入れ機関の実質的な戦力に育つことは確実だ。

３、なぜ、教える教育がダメなのか

- 今までの教える教育を受けた受験者の合格率は、あまりにも低いものであった。　その弊害を理解しないままに、従来のやり方を踏襲して未だに同じ指導を続けている機関が大半だ。　今回はそこで、教える教育の弊害を図２にまとめて紹介する。この「五つの弊害」を熟慮して、早急に現在行っている指導方法を改善することこそが、合格への一つの道といえる。
- この「五つの弊害」は、受験者の自学能力を阻害するものであり、合格能力を養う上で全ての諸問題の根源ともなっている。　合格するためには、この弊害を早急に改善する必要がある。　そして、【自学能力を養う教育】こそが唯一の解決方法だ。

図２、　教える教育の弊害

1、教えられた内容を理解せずに、ただ覚えようとする

2、理解せずに、ただ覚えた知識はすぐに忘れる

3、理解せずに、覚えようとした物事では自己発言できない

4、理解せずに得た知識は、その範囲に留まるから、対応力が無い

5、教えられない領域には、関心を持たない

Ⅴ、定期的に言語能力の到達度を見ること

1、どうすれば到達度が見えるのか（会話編）

● 図３と図４の【到達度目安表】は、受験者と会話をする場合に、その「反応と応答の仕方」で音声による言語能力の到達度を見極める手かがりとなるので、活用してほしい。

● これを参考にして、【言語能力の到達度】を見極めることが国家試験対策に是非とも必要な要素となる。
よって、日常的に業務の中で「今後は受験者の言語能力を見極める」という姿勢で対応することを是非とも望みたい。

図３　到達度目安表　＜受動会話＞

１ﾚﾍﾞﾙ	質問しても全く反応できない	（完全未知状態）
２ﾚﾍﾞﾙ	質問してもすぐに反応できない	（単なる未知状態）
３ﾚﾍﾞﾙ	どんな質問に対しても同じ反応しかしない	（不理解状態）
４ﾚﾍﾞﾙ	単語だけか、不完全な文で反応する	
５ﾚﾍﾞﾙ	質問の内容と違った反応をする	
６ﾚﾍﾞﾙ	質問の内容に正しく反応できる	

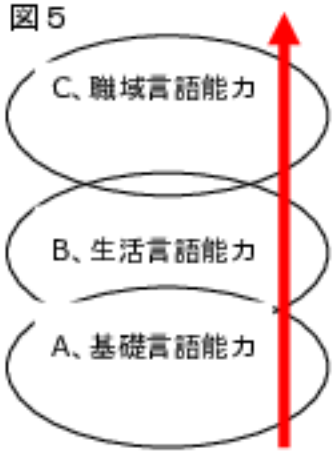
図４　到達度目安表　＜能動会話＞

１ﾚﾍﾞﾙ	自分から全く発話できない
２ﾚﾍﾞﾙ	自分から発話しても単語だけ
３ﾚﾍﾞﾙ	自分から発話しても不完全な文
４ﾚﾍﾞﾙ	自分から正しく発話できる

2、どうすれば到達度が見えるのか（文書編）

● 文書表現能力においても、【到達度目安表】図３と図４を使って、表現能力の計測ができる。
即ち、**話すカ**（口答表現能力）は、**書くカ**（文書表現能力）に正比例する。　そのため、正しく文構造を整えた会話力があれば、それを文字化する文書表現能力は備わっていると見なしてよい。　よって、図５の言語能力段階に沿って、「**話すカ**」と「**書くカ**」を、図３と図４の【到達度目安表】の基準を使って計測できる。

図５



● 計測した結果、受験者の言語能力が今現在、図５のどの段階の言語能力にあるのかが判断できる。　そして、その言語能力が正しく、Ａ・Ｂ・Ｃの順で養われるように「学習計画」を作り直し、【国家試験受験能力】を作り上げていくことが重要なことだ。　● 図５のように基礎言語能力が備わっていない限り、上位の言語能力は得られないことをこの際、再認識する必要がある。
言語能力は、【基礎があって家が建つ】と全く同じであり、「**基礎無くして家を建てた場合には、家はすぐに崩壊してしまう**」という例えを考えれば、誰でも理解しやすいだろう。

【成功例】　自学能力を養えたことで、日本人職員をも指導する人材になった！！

● 入職してすぐ【到達度試験】に参加した。　当初は日本語力がほとんど無かった。　【到達度試験】は、全てが記述式で答える問題で、「読解力」と「文章力」が一番身についた。　書く力が身についたため、ワンワードコミュニケーションではなく、センテンスコミュニケーションで対応できた。

● 国家試験対策時には、介護の参考書や専門書を読破できるようにもなっていた。　過去問題が易しく感じられているようで、自分達だけでスラスラ読み、問題を解きこなしていた姿には驚いた。　そのため、職員が指導することは、ほとんど無く自学していた状態だった。

● 国家試験の問題を解くよりも、【到達度試験】の問題を解くほうが受験者は難しくて、大変だったようだ。そのおかげで国家試験問題は易しく感じて、試験問題を再度見直す余裕もあり、二人とも合格できた。

● 合格後は業務では全く問題無く、日本語が正確に身につけられたため早番・遅番もこなし、申し送りをしなくても、円滑に仕事ができるので、日本人以上に仕事を頑張っている。新しく入った日本人職員にも仕事を教えられる程、頼もしい存在になって、施設としては本当に助かっている。

※　受験者二名ともに全員合格して、日本人と同様に活動している。　（滋賀県・福寿荘）

施設の声

国家試験問題を理解して解けない！！

- 再来年受験を控えているが、試験の問題自体が難しいので、まだ理解して答えられない状況だ。
- 日本語については日本語教師に依頼しているし、小テストのようなもので理解度を確かめているようだ。　しかし、表面上では順調に身についているようだが、月報に書かれている「施設の声」を読んでいると、言語能力を測定する試験は受けたことが無いので、果たして、本当に身についているのか不安に思うことがある。
- 残念ながら、教えられるものを覚えるのが精一杯のようで、「自分自身から学ぶ姿勢」というものは見受けられない。　そこが今、最大の弱点ではないだろうか。（神奈川県・H施設）

する職員の範囲では判断を誤る！！

- 職員が「学習を見る」という気持ちが大変強い。しかし、受け入れを始めてから、残念ながらまだ一人も合格者を出せていないのが実態だ。とは言っても、ボランティアで日本語を教えてもらっても即効性が無いし、教育効果も無いことは、月報を読んで理解しているので、ボランティアに依頼しようとは考えていない。
- 御社と話した中で、「会話はできても、文書を書くことができていない受験者が多数いる」と言われた時に、うちの受験者もそういう状況だと感じた。　受験者の会話は、表面的には支障なくできているように見えるので、指導する職員も「日本語はできるから大丈夫」という思い込みが強い。　そのため、せっかく案内頂いた「10 分間テスト」を「受けてみろ」と指示したが、受けようとしない。
- 様々な声や、教育情報が載っている月報は、指導している職員に毎回手渡している。　しかし、担当職員は自分のやり方を少しも変えようとしないので、監督する立場としては、指導している者の考えを改めない限り結果を出せないと思っている。（青森県・K施設）

- 簡単な仕事はまじめに取り組んでいるので、施設としては助かっている。　しかし、今年不合格だったために延長で残っているせいか、学習（国家試験）に対する意欲が下がっている。
- そして、学習の仕方は事業団の教材を使った「覚える学習」を中心にやってきたために、到達度や、自分の良い点や、悪い点が具体的に何も見えていない。
- ＥＰＡでは 3 年間という期限があるので、3 年目で合格するという勢いで、覚える勉強だけを一生懸命してきて、不合格の場合、一年間延長となっても嫌になって母国に帰りたいという願望のほうが強くなってしまっているのも原因だ。
- やはり、覚える勉強だけをしてきたために、不合格になると全てのことに意欲を持てなくなってしまう。　「また 1 年間覚える勉強をしなければいけない」という思いが強くのしかかって、帰国願望が強くなっていることが、本人を見て明らかだ。（三重県・V施設）

合格できても戦力にならない！！

- 合格者はいるが、今の悩みは「申し送り」や「介護日誌」が書けないこと。　その理由は、覚える勉強しかしなかったためだと思う。　本格的に働くようになって、やはり「書く力」がないと仕事にならないのが正直なところ。
- 国家試験に合格する前の勉強は、専ら専門用語の暗記や説明を聞いて覚えるというものだった。
  話せて、読めれば何とかなると思っていたからだ。
- しかし、受かってから、いざ仕事をさせてみると、会話力も話し合いや議論の場でうまく発揮されていないし、内容を聞き取り、メモをとることさえできないので、介護士として能力が発揮できていないのが実態だ。
- 日本で介護士として長く働いてもらう上では、やはり、「書く力」がとても必要なことだと改めて感じている。（京都府・N施設）

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

※ 【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 度国家試験で受験者数95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は68 名（89.4%）でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類
3 段階	75 % 専門学校卒の言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・瞬時反応 ・文脈読解力 ・要約力など
2 段階	90 % 専門学校 2 年の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習をさせる。	★ 4 技能 ・瞬時反応 ・漢字熟語力 ・文脈読解など
1 段階	90 % 専門学校 1 年の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」（語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など
F段階	85 % 高校 3 年の言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で学習させる。	★ 4 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など
E段階	80 % 高校 1 年の言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・文読解力 ・図読解力など
D段階	75 % 中学校 2 年の言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・対応力 ・要約力など
C段階	70 % 小学校 6 年の言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・文脈力 など
B段階 N2 レベル	70% 小学校 4 年の言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な知識とその使い分け」ができる能力を中心として学習させる。 ・構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・読解力など
A段階 N3 レベル	75 % 小学校 3 年の言語能力		★ 13 技能 ・瞬時反応力 ・文字認知力 ・読解力など
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。	

合格

職域言語能力を養う

生活言語能力を養う

基礎言語能力を養う

【国家試験受験能力到達度試験】参加のおすすめ

1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。

2、言語能力の到達度チェックは、２ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。　今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。

3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。　この理由から、本試験のＥレベル～国試３レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。

4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Ｄレベル）です。この段階の到達度が目標数値を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書　　＜送付先：ＦＡＸ　03-6677-0632＞

施設名/病院名：　　ご担当者名：

所在地：〒

電話：　　ＦＡＸ：　　ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：

＜受験人数＞　　名

＜受験者の国籍＞　インドネシア（　　名）　フィリピン（　　名）

※　下記の料金は受験者１名あたりの金額です。　該当するレベルを○で囲んで下さい。

＜単発受験＞

初回・レベルＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・　国試１・２・３　@20,000円×　　名　合計金額　　円

※　考察のみで、電話やメールでの指導相談は行いません。

＜継続受験＞

初回から全10回（教材費・考察指導料込み）　190,030円　×　　名　合計金額　　円

※　継続受験については、電話やメールでの指導相談を随時、行っています。

★　教材のおすすめ　　下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。
教材一覧が別途ありますので、お問い合わせ下さい。

※　ご希望の教材の冊数を（　　）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1　（　　冊）	ひらがなかーど（　　冊）	漢字のーと１　（　　冊）
100万人の日本語No.2　（　　冊）	ひらがなのーと（　　冊）	漢字ノート２　（　　冊）
100万人の日本語No.3　（　　冊）	カタカナノート（　　冊）	

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。　送料は着払いにさせて頂きます。

ことばの研究社　　〒164-0002　中野区上高田 3-2-13　石田ビル 303

電話：03－6317－6009　　ＦＡＸ：03－6677－0632　　メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp